

No.3

2018年2月

月刊 一凛

書道教室 薬院 一凛
sho-do ICHIRIN

継続は力なり



夢は美しきがよい

希望は高きがよい

夢も希望も捨てなければ

必ず近づいてくる

目的は高きがよいそのための

一里塚として目標を定めよう

そのための時に

刻むがよい



月刊一凛 No.3 <2018年2月>

《競書審査員》佐々木峯雲 《競書審査助手》小川大心 《発行》書道教室 一凛 薬院 《制作》野口昌芳(NS)



書道教室 薬院 一凛
sho-do ICHIRIN

〒810-0022 福岡市中央区薬院3-7-25 原ビル2F
TEL / 092-791-7251 FAX / 092-791-7786
<http://www.shodo-ichirin.com/>

福は内 鬼は外

不苦者 有智 遠仁者 疎道
智有る者は苦くまず 道に疎き者は仁に遠し

古代中国の暦法とともに伝えられたもので立春・

立夏・立秋・立冬の前夜を節分といいます。その後次第に春の節分が最も重く見られるようになりました。

太陽暦では二月初旬になっていますが、太陰暦では十二月になったり一月になったりすることもあり、今でも節分行事と正月行事とが入り混じって残っているところが多いようです。

陰陽道の考え方によると、季節の変わり目あたり、陰と陽とが対立して邪気を生じ災禍をもたらすことから、これを払う行事が必要でした。ここに追儺(ついな)や

らい)が行われる理由があります。

節分の夜には、いり豆をまく行事が今でも残っています。『福は内 鬼は外』となえるのは一種の呪法ですが、都会の社寺では盛んになりました。追儺式といわれるもので、一般には『豆まき』とか『豆打ち』といわれています。「鬼」を痛いめや、臭いめにあわせて追いかけることが根底にあってニンニクやラッキョウの類を串に刺したり、イワシの頭を焼いて柵ひしらきの小枝に指したりしたものを戸口にかかげる所もあるそうです。

佐々木峯雲

先生、
何書いたんっすか？

一凜に通い始めて5年以上になるが、書道作品以外で書く普段使いの文字は相変わらずきたない、悪筆は直らない。三十数年前に新聞記者になったばかりのころ、さら紙に12字×5行の小さな原稿用紙に記事を書いていた。字が下手なのに大学の教授が卒業祝いにプレゼントしてくれた高級万年筆モンブランの太字でぬらぬら文字を書いていたので、原稿をチェックするデスクやパンチャーさんに「読めない」とよく怒られた。

パソコンが普及し、今では手書きで記事を書くことはまずない。一部の新聞社が新人研修で手書き原稿を書かせたところ不評だったそう。私はといえばパソコンで原稿を打つのも、原稿用紙にペンで手書きするのも時間も手間も変わらない。手書きの方が調子良い時もあるほどだ。一方で、硬筆や細筆の作品を提出する時のように書ければ最高なのに――と妄想することもある。

最近、抽斗に眠っていた万年筆を使うようになった。福岡市天神の文具店では時折、無償で万年筆のペンを調整する「ペンクリニック」をやっている。試し書きをする際には「永」か自分の名前を書くようにしている。佐々木先生に教わったのが、永の点画には永字八法と言われる漢字の用筆法がすべて含まれているそう。一方で、書道歴5年以上の成果をペンドクターの前で試したい見栄もある。だが、ほめられるわけでもなく「書き味どうですか？」とだけ聞かれるだけだ。心の中で「字きれいですねぐらいのお世辞でも言えないのかよ」と悪態をつくこともある。

以前、佐々木先生が友人への贈呈品として専門店で購入したそう。うだ。「もちろん、試し書きはしましたよ」と言っていた。気になる、皆さんも気になりませんか。先生、試し書きは何を書いたんっすか？

墨を擦る

文・岡田 雄希

岡田 雄希 Yuki Okada

昭和33年3月20日、北九州市生まれ。平成23年12月に一凜に入門。趣味は自転車と酒を飲むこと。酒は誘われたら断らないがモットー。

街で出会う 書の世界。

書道を習う中で、普段の生活の中に見る看板やパッケージなどに使われる書が気になったことはありませんか？
このコーナーでは、お店の歴史や志が感じられる様々な書をご紹介します。



篆書体が醸し出す
老舗の味わい

【鈴懸】
創業九十余年。
博多の風土で育まれた味と技で、
東京などにも進出しているお店。

独創性豊かな味わいを
力強い隸書体が表現



【石村萬盛堂】
明治38年創業。
伝統と革新が
織りなす技術は
「ボンサンク」
ブランドも
手がけている。

丁寧な筆づかいは
確かな技術と伝統を感じさせる



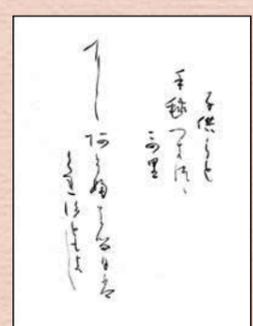
【湖月堂】
明治28年、北九州の小倉で誕生したお店。
地元に永く親しまれるその味は、薬院店でも味わえる。

2月分 課題

2月分課題は3月10日(土)が提出期限予定です。
諦めることなく、コツコツと努力することが何より大切です。
みなさん、今月も頑張りましょう。



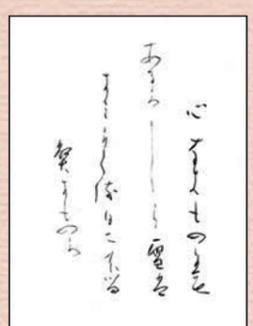
《漢字 草書》
六段以上



《かな》六段以上
子供らと
手毬つきつつこの里に
遊ぶ春日は暮れずともよし



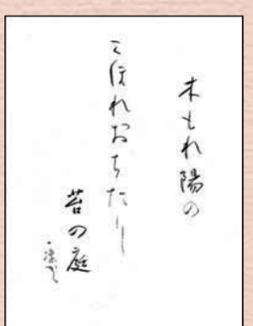
《漢字 行書》
初段～五段



《かな》初段～五段
こころなきものにあるか
白雪は 君がくる日に
降るべきものか



《漢字 楷書》
10級～1級



《かな》
10級～1級

智に働けば角が立つ。情に棹せば流される。意地を通せば
宥金だ。逸角に人の女は住むに。夏目漱石、草枕より
知力も働かせると人から嫌われる。という人情にふかされるとい目にあう。

《硬筆》
初段以上

人間関係というのは相手との距離を、
え置けばうまくいく。もめるのはその
距離を越えようとすることからだ。連城三紀彦

《硬筆》
10級～1級

名は体を表す

第3回「唯」

▼井上唯さん



イ(止)・ユイ
しかり・これ・ただ

▼漢字の分類

合意：象形(ものの形そのまま象る)や指事(事物の関係を示す)の字を組み合わせて、新しい意味を表す。

▼解説

口と佳とを組み合わせた形。佳の前に匕(神への祈りの文である祝詞を入れる器)をおく形。佳は小さな鳥の象形。鳥は神の使者と考えられて、しばしば鳥占いに使われた。唯は「しかり」「鳥占いによって神意を問うのに対して神がよろしいと聞き入れるの意味である。」「畏まりました」というとき、「唯。唯唯」という。

あなたの名前の漢字の成り立ち

人の名前は、その中身や性質を的確に表すことが多いといわれます。このコーナーでは、一凛に通っておられる生徒さんの名前の中から多く使用されている漢字を選び、その成り立ちを紹介していきます。

今月の言葉

平昌オリンピックでの日本選手の活躍が期待されます。スポーツが見る人々に感動を与えるのは、栄光という目標のため長い期間、絶大な努力を積み重ね、その技を極めた美しい姿に心が震えるのだと思います。

冬のスポーツでは、女子フィギュアスケートの選手が、完璧な出来で演技を終え、緊張から解放された時に見せる感極まった表情に私は心を打たれます。転倒など失敗の許されない一発勝負の舞台。毎日反復練習し、不安や恐怖を乗り越え、自分を信じて臨んだ証がその表情に現れるのだと思います。

私は大きな作品に臨む際、少なくとも二ヶ月程前から兎に角「書く」反復練習に徹してきました。一日最低半切紙一枚。根気のいる練習です。仕上げの際、「これだけ練習してきたのだから」という自信が生まれ、程良い緊張で筆を持ち画仙紙に対峙することが出来ます。人を感動させる作品を作るには、相応の努力と苦勞が必要だと思えます。

私は皆さんに「練習しなさい、書き込みなさい」と口煩く言っています。今後も課題を仕上げる際には、一字でも多く練習を重ね、感動を与える美しい作品を目指して頂きたいと思っています。